

“The Best Image 2014” 参加レポート

札幌南三条病院 平野真理

クリスマス装飾で街が華やぐ 12 月、東京国際フォーラムで行われた「The Best Image2014」に参加することが出来ました。

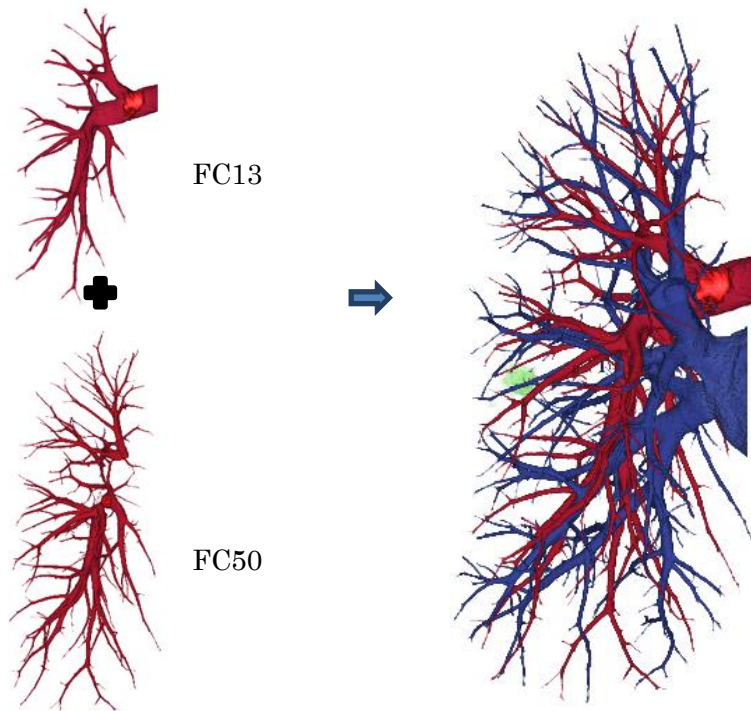
会場入り口の驚くほど大勢の東芝社員の方のお出迎えにひるみましたが、学会とは違う華やかさが「画論」にはありました。とても楽しかったです。そして日常業務の工夫に対し「テクニカル賞」という大きな「いいね！」をいただき大変光栄です。

受賞作品の概要：

肺がん手術のための肺動静脈を分離した 3D 画像。

上中葉と下葉で血流が異なる症例を、時相の違う画像を重ねることで作成した。

● ルーチンの 3D 画像。(二相、4 個の Volume data を使用して作成)



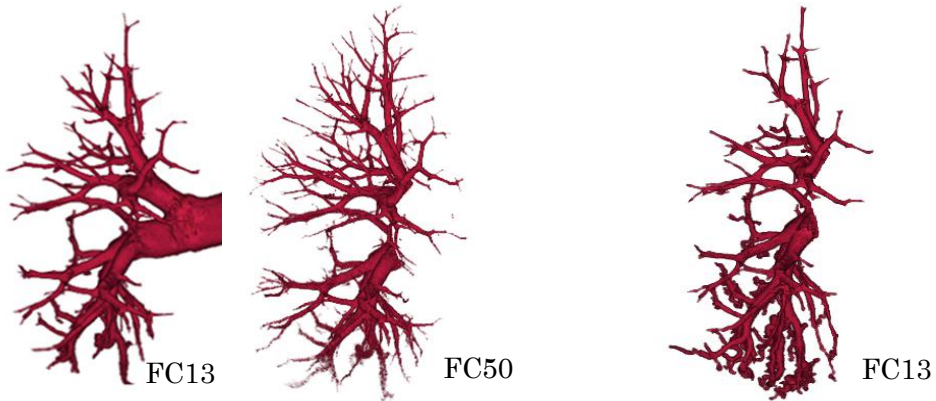
肺動静脈を分離するために TBT 法により造影剤を注入し、Dynamic Helical Scan を使用し三相撮影。

通常は動脈優位相と静脈優位相の二相のデータを使用して画像を作成しています。末梢部分は高分解能関数を使用しています。(肺動脈は第一相、肺静脈は第三相のデータを使用)

● 受賞作品：血流が異なる 3D 画像。(三相、5 個の Volume data を使用して作成)

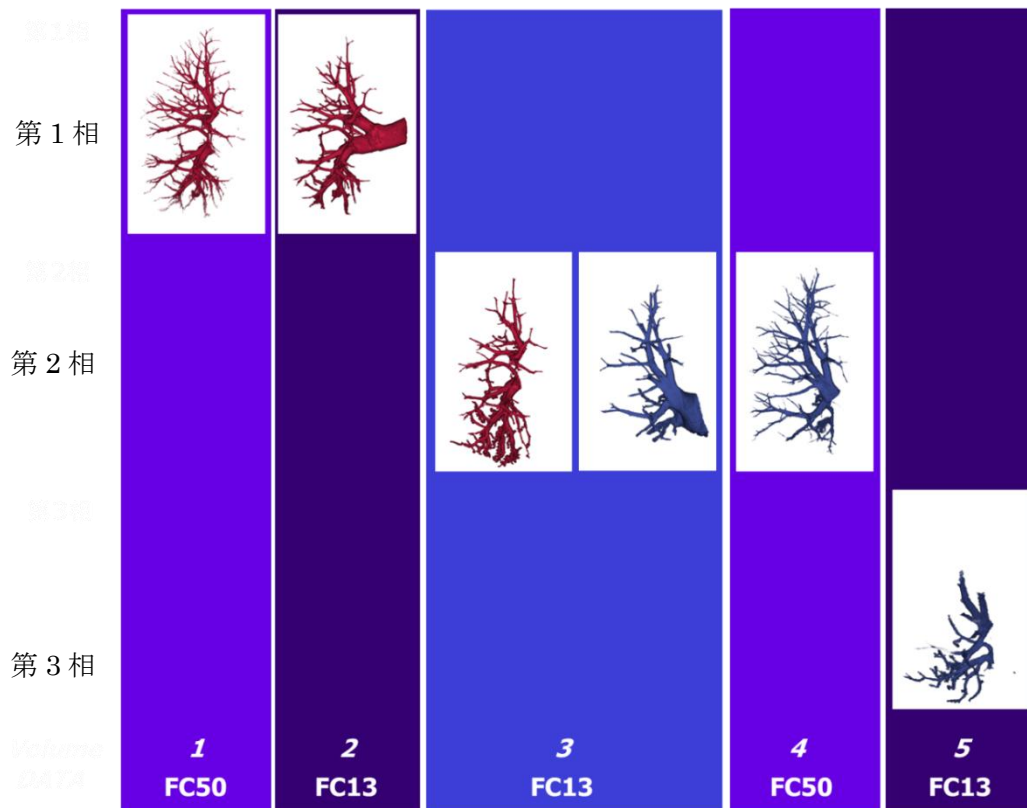
下葉の血管が描出できない第一相

上中葉の血管が描出できない第二相

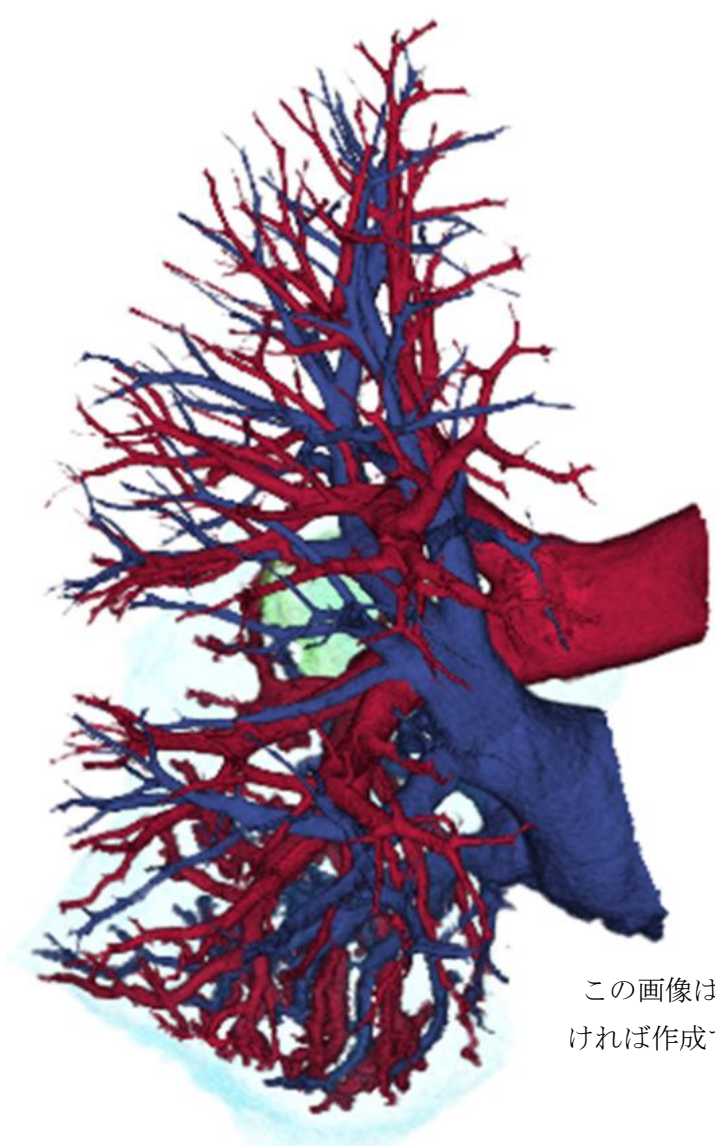


今回応募した症例は下葉に広範囲な無気肺と胸水があるため、肺動脈、肺静脈ともに上葉と下葉の血流が異なっていたため、全体の血管を描出することができませんでした。

そこで三相の画像を重ね合わせて 3D 画像を作成しました。



使用した時相と Volume data



この画像は Dynamic helical でなければ作成できなかった画像です